

図工の時間

前編

「気になる」子ども

畑本 真澄 著

実は「考え中」
なのかも…?



日文的Webサイト

日文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。
令和6年(2024年)度版小学校図画工作科内容解説資料として扱われます。



心が動く、その先へ。
日本文教出版

はじめに

やりたいことが思い浮かばず固まっている、手先が不器用でうまくできない、やる気がなく机につぶしている…。**図工の時間、そんな「気になる子ども」はいませんか？**次へ進めるような声かけをしたいけれど、ぴったりな言葉が浮かんでこない…。そんな悩みを抱えている先生もいらっしゃるかもしれません。

「気になる」子どもは、なぜそのような言動をしているのでしょうか？**現象として見えている子どもの姿の裏側には、「本当は頑張りたい、でもうまくできない」という心が隠れている**かもしれません。

本資料では、現場の先生から寄せられた「気になる」子どもに関するお悩みについて、畑本先生と一緒に子ども目線で考えたいと思います。



畑本 真澄 兵庫県神戸市立東垂水小学校 再任用教諭

富山県富山市生まれ。図工専科教諭として、神戸市の図工教育に長年に渡り貢献。これまでに、神戸市立小磯記念美術館教育普及担当指導主事、神戸市小学校研修図工グループ研究部長、第71回兵庫県造形教育研究大会神戸大会研究局などを務める。初任校は肢体不自由の養護学校であった。特別支援教育コーディネーターも勤め、通常学級における特別支援教育の実践に取り組んでいる。一人ひとりの育ちの中で幼稚園・小学校・中学校の造形教育のつながりを大切にしている。好きなことは、季節の料理と電車。

※本資料は、日文 Web サイト「学び！と美術」Vol.155、156、158 の内容を再編集して掲載しています。

Q1

子どもが「先生、これでいいですか」と作品を持ってくるときがあります。なんと答えたらいいか分からず、悩んでしまいます。**自分なりの表現をもっと追求したくなるような言葉を掛けられたらいいな**と思うのですが…。



A

子どもはなぜ先生に聞いてきたのでしょうか。「これでいい」を決めるのは「先生」だと思っているからかもしれません。授業中の言葉が「指示」ばかりになっていませんか？振り返って考えてみましょう。

☀️ 作業手順だけを伝えていませんか？

授業中、子どもたちにどんな言葉で活動内容を伝えているか振り返ってみましょう。例えば「最初に輪郭線をかいて、次に絵の具で色を塗って、最後に背景を塗りましょう」なんて**作業手順を伝える言葉や板書ばかり**になってしまっていないですか？

もしそうなら、子どもたちは先生に言われたとおりに「作業」をこなすだけなので、当然「これでいいか」を決めるのは先生、ということになってしまいます。

図工は、大人がいいと思う作品をつくらせるための時間ではありません。

子どもたちが自分の中にある思いに気づき、表したいことを見付けられるように促す声かけと一緒に考えていきましょう。

☀️ 子どもに問い返し、お話ししよう

もし子どもたちが「これでいいですか」と聞いてきたら、一緒に作品について話をしてみましょう。

子どもと
お話ししながら、
思いを引き出そう

- いちばん好きなのはどこかな？理由も教えてくれる？
- そのとき、どんなことがあったのかな？
- こだわったところを教えて？
- なるほど！○○のイメージを表したかったんだね。それならどんな色や形がいいかな？

☀️ 「手順」をやめたら、子どもたちの「言葉」が変わった！

知り合いの若い先生から、『『うごいて楽しいわりピンワールド』（教科書3・4上 p.12-13）をやるんですが、どのように授業を進めたらいいか悩んでいて…』と相談を受けたことがありました。

その先生は、「作品例を見せて、割りピンの使い方を説明して、つくり方を説明して…」と手順を示していく授業をイメージしている様子でした。

そこで、「いろいろな大きさや形の紙を用意しておいたらどうかな？」「割りピンを使ってできる動きを試す時間をとったらどうかな？」とアドバイスしたんです。

授業後、その先生が「これまで聞いたことのないような言葉が、子どもたちからたくさん出てきたんです！どんどん自分たちで工夫していくんです！」とうれしそうに報告してくれました。聞くと、次のような言葉だったそうです。



「手順」をやめて、
変化した
子どもたちの言葉

- 先生、○○を使いたいんだけど、ありますか？
- 先生、ここをこうしたいんだけど…
- 先生、こんなこと思い付いたよ！見て見て！

実際に動かしたり試したりする中で、それぞれの思いやアイデアが生まれてきたのだですね。子どもたちの心からの主体的な言葉が自然と出てきたのだと思います。

その先生は、これまでは「最初に見せた作品例と同じような作品ばかりができあがってしまう…」と悩んでいたそうなのですが、今回は「子どもたちの動きも言葉も全然違って、すごく楽しかったです！」と話してくれて、私もうれしく思いました。

「手順」を進める授業はたしかに「安心」なのですが、子どもも先生も実は全然楽しくないんです。授業をする先生自身が楽しんでいるということも子どもに伝わりますから、とても大切なポイントです。

message

実は、先生に言われたとおりに作業するだけのほうが子どもたちはとってもカンタンなんです。だって、あんまり考えなくてもできちゃいますよね。

「上手な作品をつくらせなきゃ、かかせなきゃ」と焦っていませんか？図工で大切なことは、子どもがめいばい心を動かして「やってみたい、表してみたい」と思いながら活動することです。

どの子も頑張りたい気持ちでいっぱいです。最初はうまくできないのが当たり前。試したり、友だちと交流したりする中で、「いいこと見付けた！」「こんなことを表してみたい」「もっとこうしたい」という気持ちが生まれていきます。

子どもが見付けたことをしっかりと受け止め、応援し、支えていきたいですね。

Q2

作品例やお手本を見せると引張られてしまい、「まね」で終わってしまう子どもがいるのではないかと心配です。見せないほうがよいのでしょうか。見せるとしたら、どんなところに着目させるとよいでしょうか。



A

作品例を見せるときに、「こういう作品をつくろう」と子どもたちに伝わっていませんか？見せる場合は、**題材のねらいに合った問いかけをすることが必要です。**

🐾 見せることで、何に気付いてほしいのか

活動の見直しをもたせたいときや、発想のヒントにできるように、作品例を見せることが有効な場合はもちろんあると思います。ただ、「今日はこれをつくるよ」と伝わってしまうと、当然子どもたちは「そうか、こういうのをつくるんだな」と思ってしまいます。

「見せる／見せない」が重要なのではなく、「**なんのために見せるのか**」を**しっかり考えましょう**。見せることで、子どもたちにどんなことに気付いてほしいのかが大切です。

私も、授業の初めに教科書の作品を子どもたちと一緒に見るがよくあります。そのときは、「どんなことを考えながらかいたのかな」「どんな工夫をしているのかな」など、**その題材で発揮してほしい資質・能力につながるような質問をします**。そうすることで、子どもたちが「こんなことを頑張りたいな」と思えるようにしています。

🐾 教科書を例に：「こんなことあったよ」

例えば、教科書の「こんなことあったよ」（教科書1・2下p.26-27）を例に考えてみましょう。この題材で大切にしたいのは、「楽しかった」「面白かった」「頑張った」といった子どもたちの「気持ち」そのものです。

作品例を見せるときは、**作者の「気持ち」が絵のどんなところから感じられるか、子どもたちと一緒に見付けることを楽しんでみましょう**。「どんなことが楽しかったと思う？」と問いかけたり、「周りに何かかいてあるね」とメインではないところにも気付けるよう促したりするとよいと思います。先生が気付いていなかったことを子どもたちが見付けてくれることもたくさんあります。



すいすいペンギン

[38 × 54cm / クレヨン、ペン、えのぐ]

令和6年度版小学校図画工作科教科書

『ずがこうさく1・2下』p.26



かぞくでりょかんでおひるねをしたよ

[38 × 54cm / クレヨン、えのぐ]

令和6年度版小学校図画工作科教科書

『ずがこうさく1・2下』p.27

「すいすいペンギン」を見せよう

- T 「お友だちのかいた絵を見てみよう。どんな楽しいことがあったのかな」
- C 「ペンギンだ！私も見たことあるよ」
- C 「すべり台をすべって水中に飛び込んで」
- T 「ほんとはね。なんでペンギンさんをかこうと思ったのかな」
- C 「ペンギンのいろんな動きが面白かったからじゃないかな」
- T 「そうかもしれないね。ほかにも見付けたことはあるかな」
- C 「みんなで見ているよ。きっと友だちと一緒に見たんだ」

「かぞくでりょかんでおひるねをしたよ」を見せよう

- T 「じゃあこっちは絵はどうか？どんなことがあったのかな」
- C 「旅館に泊まって、寝たときが楽しかったから、かいたんじゃないかな」
- T 「なんで楽しそうって分かったの？」
- C 「顔がなんだかうれしそうだから」
- T 「ほんとはね。周りはどうかな？」
- C 「リュックやかばんだ。旅行に必要ないろんな荷物が入ってるんだ」
- T 「きっとそうだね。この黒いのは何かな？」
- C 「テレビだ！電話もある」
- C 「知ってる！旅館に泊まったとき、テレビがあったよ」
- C 「布団にも何かかいてある。かわいい布団だね」

…こんなふうに、子どもたちは見付けたことをお話するのが大好きです。

絵を見ながらお話しする中で、子どもたちは自分が実際に体験したあんなことやこんなことを思い出し、「私はあれをかきたい!」とうずうずしてきます。そうなれば、ほとんどの子どもは「作品例のとおりにかこう」とはならないのです。

「まね」から始まっていい

「友だちのまねばかりしている」と不安に思う先生もいらっしゃるかもしれません。まず、「まねする」こと自体は決して悪いことではありません。友だちの発想やアイデアをよく観察できている証拠ですね。

また、なんとなく「まねしている」ように見えても、お花の色だけ変えているとか、ちょうちよをかき足しているとか、よく見ると「その子らしさ」が絵に出てきていることがあります。それをめざとく見付けて、「ちょうちよがいるんだね」「そんなことも考えてたんだね」など、認める声かけをどんどんしていくと、もっと自分の思い付いたことをかきたいという気持ちになっていくはずですよ。

最初はまねから始まってもだんだん変わっていくので、それを見付けて褒める声かけをどんどんするとよいでしょう。

message

「まね」は、自分を表に出すことへの不安が根底にある場合が多いと感じています。

例えば、「同じキャラクターばかりかく子どもがいて気になる」という悩みを抱えている先生もいらっしゃるかもしれません。もしかすると、「そのキャラクターならかける」という安心感があるのかもしれません。きっと、そのキャラクターをかくことで周りから褒められた経験があるのだと思います。

図工の時間は、「それいいね」「すてきだね」「そんなこと考えたの?すごい!」とお互いを認め合う言葉がたくさん聞こえてくるといいですね。そういう雰囲気づくりが、全ての活動のベースになります。

先生や友だちから認めてもらう声かけをたくさんもらうことで、子どもは「自分の思ったことをかいていいんだ」と自信をもてるようになっていきます。

Q3

発想することが苦手な様子で、ずっとかたまっている子どもがいます。どんな声かけをすれば、動き出せるでしょうか。



A

一見「かたまっている」ように見える子どもも、もしかすると「考え中」なのかもしれません。かたまっている理由もそれぞれ異なります。これまでの図工や学級での様子も思い出しながら、「なぜかたまっているのかな？」と理由を考えてみましょう。

🐼 かたまっている理由を考えよう

かたまっている理由が違えば、必要な支援も変わってきます。まずは子どもの様子を観察し、なぜかたまっているのか考えてみましょう。

子どもの様子を
よく見て
考えよう

- 導入の「楽しかったこと何かあったかな」「そのときどんな気持ちだったかな」という問いかけが漠然としていて、イメージが沸きにくいのかも。
- 表したい思いはあるけど、それを言葉にしたり絵にかいたり、表に出すことが不安なのかも。
- イメージはあるけど、どんなふうを表したらよいか困っているのかも。
- この子はスロースタートなことが多いから、今はじっくり考えている段階なのかも。
- 材料を触りながら思い付く題材はすぐに動き出していたな。手を動かしながら考えるほうが、表したいことを見付けやすいのかも。
- よく見るとキョロキョロと友だちの様子を見ているな。手がかりを探しているのかも。
- もしかして…忘れ物をしたことを言い出せなくて困っているのかな？

「この原因ならこの手立て！」と一つに決まるわけでももちろんありません。ここでは、私が実践している支援の例をいくつか紹介したいと思います。

🐼 ①言葉＋具体物で伝える

特に低学年では、言葉だけで何かを理解したり、自分の思いや考えを言葉で表現したりすることが難しい場合が多くあります。また、抽象的な「楽しい」「うれしい」「思い」「気持ち」といった概念をイメージすることが苦手な子どももいます。

材料を実際に操作して見せながら説明する、作品例を見ながらいいなと思うところや気になるところを一緒に話す、など言葉＋〇〇で伝えることをまずは意識してみましょう。

🐼 ②具体的な選択肢を示す

長時間かたまっている様子だったら、何か一つ行動できそうなことを提案してみましょう。例えば、クレヨンや色画用紙などの色を選んでみるように促す、などです。

例

クレヨンの色を
選んでみるよう
提案する



- T 「どの色を使ってみたい？」
- T 「好きな色、教えて？」
- T 「いくつか選んでみてもいいね」
- T 「ほかの色も確かめてみる？
どの色が合いそうかな」

このとき気を付けたいのは、「これを使ってみたら」と先生が決めてしまわないことです。それだと本人の意思とは関係がなくなってしまいます。

小さなことでもいいから、子どもが自分で選ぶ・決めることを大切にしましょう。小さな「選べた」「できた」の積み重ねが、次の活動のエネルギーになります。

③丁寧に、共感的に聞いてみる

例えば、生活の中で楽しかった、心に残った出来事を絵に表す題材で、「かきたいことがない」と言っている子どもがいたとしましょう。「楽しかったこと、ある？」という**漠然とした問いかけでは思い浮かばなかったのかもしれない**。そんなときも、ちょっとずつ共感的に聞いていくと、その子の中にある自分の気持ちに気付くことがあります。

子どもと
お話ししながら、
共感的に少しずつ
聞いてみる

- T「楽しかったこと、最近何かあった？」
C「うーん、別にない…」
T「そうなんだ。休み時間、友だちと何してるの？」
C「教室でなんか、じっとしてる」
T「へえ。じっとして、何してるの？」
C「友だちのこと見てる」
T「へ～、そうなんだ！面白そうだね。みんなどんなことしてたの？」

…これはあくまで一例ですが、こんなふうに、**子どもと話しながら一緒に見付けていく**ことから始めてみましょう。

④お試し紙を用意する

「材料を触って手を動かしながら考えた方が思い付きやすい」

「計画的に見通しをもって進めたい」

「友だちの活動を見て考えたい」

子どもによって、自分に合った学び方はいろいろです。**自分の学び方で進められることで、安心して活動に入っていける場合があります。**

子どもが自分に合った学び方を選択できるように準備しておくことも大切です。

支援の例として、私はどの授業でも、お試しの小さな紙を用意しておいて、使いたい子はすぐ手に取れるようにしています。

子どもによって使い方はさまざまで、

- 大きな画用紙にかく前に、構図などのイメージを確かめたい
- 工作の題材で、つくりたい形や設計図をかいて考えたい
- コンテ、パステルなどの描画材でかいたときの感じを確かめたい
- 切ったり貼ったりしながら考えたい



…など、**発想の手がかりを見付けるためのアイテムとして使うことができます**。写真はいろいろな色の紙を用意していますが、題材によっては白い紙だけにするなど、大きさや色を考えるとよいでしょう。

自分に合ったやり方が違うのは、大人も同じですよね。日頃から子どもたち一人ひとりの様子をよく見取って特性や個性を理解することで、その子に合った声かけや支援が徐々に思い浮かぶようになっていきます。

message

私は、「かたまっているな」というより、「何か考えているんだな」と思って子どもたちを見ています。子どもに「今、何か考えているところ？」と尋ねてみることもあって、「うん」と答えてくれることが多いです。今まさにすてきなことを考えている最中なんだなと分かるので、安心してしばらく見守ります。何もしていないように見えると心配で、「みんなと同じように動き出せるように支援しなきゃ！」と焦ってしまいがちです。先生自身が時間と心に余裕をもち、「待つ」「見守る」姿勢でいることも大切です。

「待つ」＝「放置」ではありません。視界の端で、その子の様子をよく見ておきましょう。隣の子の活動を見ている、友だちの様子や材料置き場を見に行くなど、何かしらのアクションが見られるかもしれません。

そのタイミングで声を掛けてみたり、また離れたり、「付かず離れず」の距離で見守ったり、思いに寄り添ったりしましょう。

それでもなんの動きも見られないときは、困っていることを丁寧に聞くことから始めてみましょう。

予 告

『図工の時間「気になる」子ども～後編～』（2027年3月発行予定）では、以下のお悩みについて、畑本先生と一緒に考えていきます。

- Q1** 表したい思いはあるのに、手先や指先が不器用で、技能面で追いつかずいら立っている様子の子どものいます。どのように支援すればよいでしょうか。
- Q2** 絵のかき方の指導が難しいです。人物のかき方や風景の遠近感など、どのように子どもに教えればよいのか分かりません。絵をかくことに苦手意識がある子どもも、上手なかき方を知ることで自信につながると思うのですが…。

デザイン 株式会社木元省美堂
イラスト 北野 有

図工の時間「気になる」子ども ～前編～

日本文教出版株式会社
令和8年（2026年）7月9日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD3113110100

日本文教出版株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261 FAX：06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611 FAX：03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696 FAX：092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL：052-979-7260 FAX：052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201 FAX：011-764-0690